



こんにちは、若松在宅医療・介護連携支援センターです！

令和3年度 秋号



平素より医療・介護関係者のみなさまにおかれましては、若松在宅医療・介護連携支援センター（以下、当センター）の事業にご協力いただき、心より感謝申し上げます。

【 医療・介護従事者合同研修会 のご報告 】

9月14日、他区にある連携センターとの合同研修会を開催しました。会場とオンラインのハイブリッド形式にて、「**あらためて確認したい新型コロナ感染対策**」をテーマに、新小文字病院の富永尚樹先生、コネクト合同会社 CEO の山口征啓先生にご講演頂きました。新小文字病院は福岡県初のクラスターが発生した病院です。当時、災害対応として迅速に対策本部を設置し、感染拡大を最小限に抑える事ができた経緯を改めて知る事ができました。また、職員への風評被害や差別で精神的にも辛い思いをされたそうです。今後このような事態を防ぐ為には、**正しい情報**を得て、**目標を明確にした業務の継続**が大切であると学びました。

アサデス。でお馴染みの山口先生の講演では、施設や職場での正しい感染対策の他、**ワクチンの有効性や最新の出口戦略**についてもお話頂き、蔓延状態からの明るい兆しを感じられました。山口先生は現在、福岡県内の入所・通所施設を周り、感染対策の指導もされており、その現状や様々な工夫例も紹介されました。また、ワクチンに関する SNS などの**間違った情報に振り回されないで！**と強く訴えていました。「**正しい情報を得て、正しく対処し、正しく恐れる**」ことが大切ですね！



【 11月30日は（いい看取り）＝人生会議の日 です 】

「ACP」～アドバンス・ケア・プランニング～について考えよう



ACP とは、人生の最終段階における医療・ケアについて、本人が家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合う取り組みで、通称「**人生会議**」と呼ばれています。2014年に厚生労働省が行った意識調査で以下の結果が出ています。

あらかじめ自分の治療やケアについての希望を書面に記載しておくことに賛成・・・**70%**
人生の最終段階の治療やケアについて家族と詳しく話し合ったことがある・・・**3%**
実際に自分の治療やケアについての希望を書面に記載していた・・・**3%**

このように、話し合いの重要性には多くの方が賛成していますが、実際に行動に移す方はまだまだ少ないのが現状です。「人生」や「もしも」について家族や身近な人と話し合うことで、本人が望んだ治療・ケアを受けられる可能性が高くなります。この人生会議の普及活動として、もしバナゲームやエンディングノートなどの社会資源の活用が広がっています。ぜひ、ACPについて考えてみては如何でしょうか。



【とびうめ@きたきゅうの登録状況について】

コロナ禍におきましても変わらぬお声掛けをありがとうございます。9月末までの新規登録者数は、22,829名、そのうち若松区内は3,146名となっており、区内65歳以上の高齢者の11.8%となります。より多くの方に「とびうめ@きたきゅう」への理解が得られ、登録につながりますよう引き続きご協力をお願い致します。

